



内閣官房 内閣情報調査室

CABINET INTELLIGENCE and RESEARCH OFFICE

採用案内 2024

WHAT IS INTELLIGENCE?



内閣官房内閣情報調査室

〒100-8968 東京都千代田区永田町 1-6-1 内閣府庁舎 6階

採用専用 / TEL. 03(5253) 2107

直通 / TEL. 03(3581) 5083

- 丸ノ内線 ● 千代田線
国会議事堂前駅 3番出口 徒歩 5分
- 銀座線
溜池山王駅 8番出口 徒歩 10分
- 南北線 溜池山王駅 (千代田線ホムム経由)
国会議事堂前駅 3番出口 徒歩 5分



Message

我が国の安全のために

我が国を取り巻く安全保障環境が厳しく、かつ、複雑化していると言われて久しいが、令和5年(2023年)は、その度合いが一段と高まったのではないと思われる。5月のG7広島サミットや8月の米キャンプ・デービッドでの日米韓首脳会談において、G7や日米韓の連携、取り分け安全保障協力の分野での連携が深まった一方で、ロシアによるウクライナ侵略は二年目を迎え、北朝鮮によるミサイル発射も相次ぐ状況にある。三期目に入った習近平政権下での中国による国際的な影響力の拡大も引き続けている。さらには、イスラエルでは、10月にハマスによるテロ攻撃が発生し、以降紛争は長期化の様相を呈している。これに伴い、中東諸国をはじめ、世界各地で関係勢力がその活動を活性化させている。目をサイバー空間等に転じてみれば、犯行主体が必ずしも判然としないサイバー攻撃は烈度を増しているほか、様々な媒体を通じての偽情報の発信・拡散も加速度的に増えている。

このような厳しい環境の中で、我が国の安全を確保するためには、日々生起し、又は生起しようとしている事象についての情報を、正確かつ迅速に収集し、それらについての確かな分析・評価を行った上で、効果的な対策(政策)を講じていくことが必要不可欠である。ここで何よりも重要なことは、情報を収集・分析する部門と政策を立案する部門とが密接に連携しつつも、分離されているということである。情報部門が政策部門に迎合し、その意に沿った情報しか出さないとすることになれば、情報部門はマイナス以外の何物でもないと言えよう。

内閣情報調査室は、内閣総理大臣を直接補佐・支援する内閣官房において、「内閣の重要政策に関する情報の収集及び分析その他の調査に関する事務」を担当している。具体的には、様々な手法を通じて国内外の情報を収集・分析し、内閣総理大臣をはじめとする要路に定期的に報告することで政策決定を下支えしている。また、我が国に複数存在する情報関係省庁で構成された情報コミュニティの「要」として、政策部門との連絡調整を通じた「連携」と「分離」の確保を図っているほか、コミュニティ全体の発展のための活動を行っている。

情報の世界は、小説や映画で描かれているような超人的な個人が縦横に活躍する世界ではなく、まさに「チームスポーツ」の世界という表現が相応しい。生まれ育った我が国の安全を確保するという強い使命感の下、多様な知識・経験を有するメンバーが集い、諸課題にチャレンジする。そのようなチームの扉を、一人でも多くの前途有為な皆さんが叩いてくれることを期待している。

内閣情報官
原 和也



CABINET INTELLIGENCE and RESEARCH OFFICE

contents

1	我が国の安全のために	15	1年目職員に聞いてみました
3	内閣の総合戦略機能、内閣官房	17	理系出身職員によるスペシャル対談
4	内閣情報調査室の組織体制	19	仕事と子育てを両立する職員の働き方
5	総理の目と耳としての役割	21	両立支援制度
6	「インテリジェンス」を紡ぐ	22	待遇・制度、採用について
7	内閣情報調査室の業務	23	キャリアステップ
11	内閣衛星情報センターの業務	25	2024年度採用スケジュール
13	職員に聞いてみました	26	内閣情報調査室の歴史と発展



Mission 02

総理の目と耳としての役割 ～政策決定プロセスの支援～

情報機関の役割は、政策決定者の判断を支えるための支援です。

政策決定者が国家の進むべき方向性を決定する際、背景事情やリスク・利益といった物事の見通しがなければ、正しい判断を行えません。インテリジェンスとは、いわば国家という大きな船が航海する上での不可欠な海図なのです。

■ インテリジェンスの提供

内閣情報調査室が提供するインテリジェンスは、様々な場面で国の政策決定を支援しています。

内閣総理大臣への定例報告

毎週定例の内閣総理大臣への報告を行っています。重要かつ緊急を要する情報については随時報告されます。総理の目と耳としての役割を果たし、官邸の柔軟かつ機敏な政策決定を支援するのが当室の役割です。

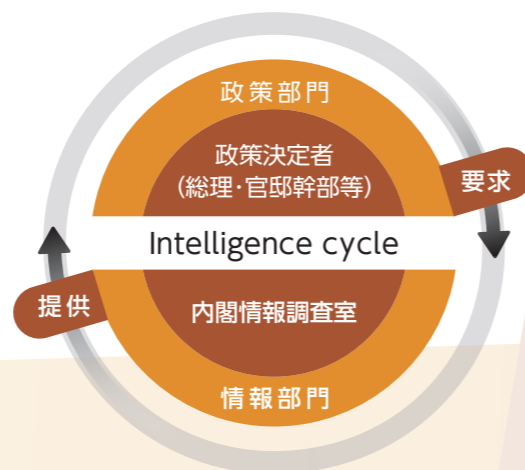
国家安全保障会議 (NSC) への参加

NSCに提供された情報は、国家安全保障局により、政策立案等のために活用されています。

■ インテリジェンス・サイクル

情報と政策は、分離しつつも密接にリンクしています。

政策決定者が自ら情報収集を行うと、結論ありきの恣意的な内容になりかねません。政策を決める者(政策部門)と、情報を扱う者(情報部門)は、明確に立場を分ける必要があります。しかし両者は乖離することなく、密接にリンクしています。両者は、インテリジェンスの要求と提供を繰り返し、有機的なインテリジェンス・サイクルを形成しています。

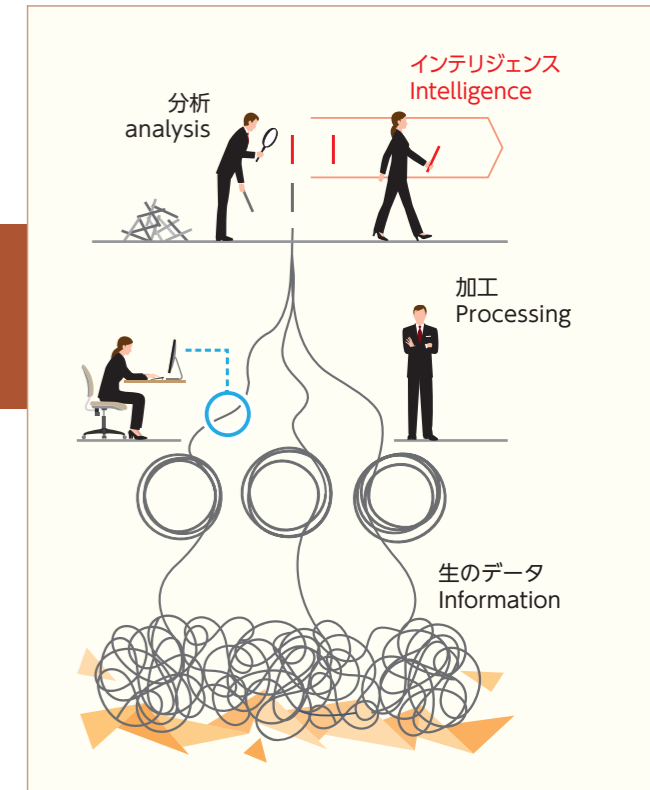


Mission 03

「インテリジェンス」を紡ぐ

内閣情報調査室の業務は、一般的な行政事務とは趣が異なります。
タイムリーで質の高い「情報(インテリジェンス)」を紡ぎ出すことが、私たちの仕事です。

私たちを取り巻く様々な国内外の情勢や重要課題について、背景の調査・現況の把握と今後の動向の分析を、客観的・中立的・多角的な観点から行います。



■ 内閣情報調査室における「インテリジェンス」の創造

当室の業務は、時に「新聞記者」「商社マン」「学者」といった言葉になぞらえられます。こうした例えは、わたしたちの業務がいわゆる役人的な型にはまらないものであることを言い表しています。

収集 フットワークを生かす

国内外の様々な人から話を聞くほか、公開情報の収集、海外の情報機関との情報交換、他省庁からの情報提供、人工衛星による画像情報の収集等、積極的に情報収集を行っています。

分析 物事の背景、真相を解き明かす

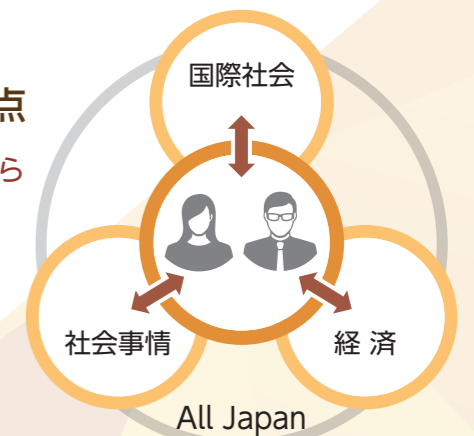
様々な情報収集手段(公開情報、衛星画像、人的情報等)によって得られた情報に基づき、分析を行います。



■ 縦割りにとらわれないオールジャパンの視点

特定の政策や分野に縛られない「オールジャパン」の視点から業務が行えることは、当室の大きな特徴のひとつです。

内閣情報調査室は、「内閣の重要政策に関する全ての情報」を取り扱っています。他省庁がそれぞれの掌理する範囲内の情報を取り扱うのに対し、当室では特定の事項に限定されることなく、幅広い事象を対象として情報の収集・分析を行っています。



Works

01



内閣広報室提供
安保理首脳級会合



内閣広報室提供
国連気候変動枠組条約
第28回締約国会議(COP28)



内閣広報室提供
APEC(アジア太平洋経済協力) 首脳会議

多機能型の総合的な機関として拡大する内閣情報調査室

情報コミュニティ省庁との連絡調整

内閣情報調査室は、情報コミュニティの「要」(結節点)としての役割を果たしています。

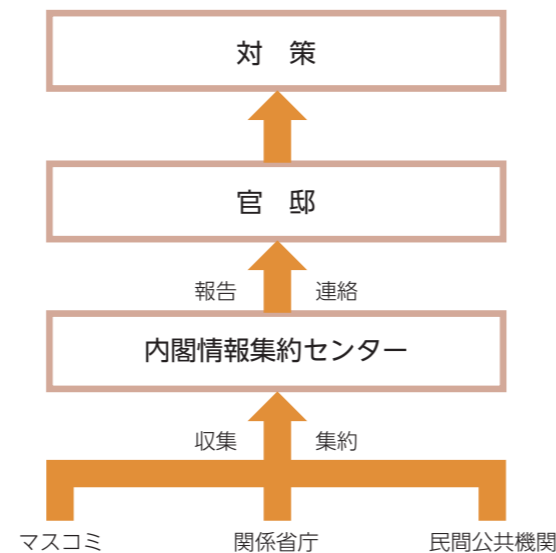
当室は、官邸の政策担当者と情報コミュニティ省庁、両者をつなぐ連絡調整の役割を担っています。閣議決定に基づき設置された内閣情報会議、合同情報会議、情報収集衛星推進委員会及び情報収集衛星運営委員会を開催するほか、当室が中心となって関係省庁との連絡会議を随時開催し、いわば「オールジャパン」で内閣の政策判断を支援する体制が構築されています。



緊急事態の初動対処

安全保障や災害に関わる情報を、当室から官邸幹部に速報します。

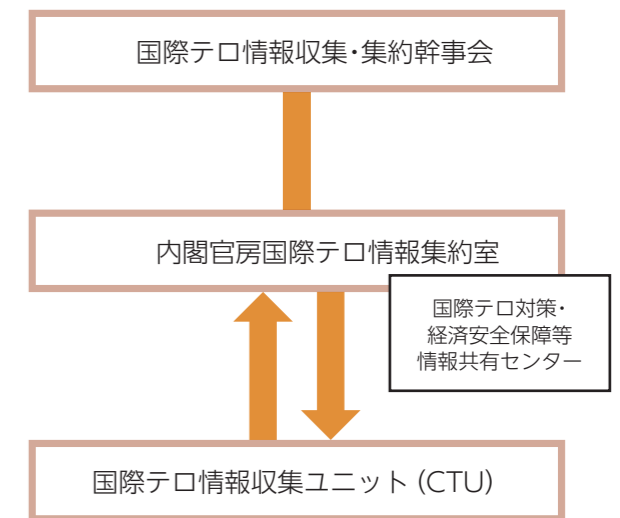
大規模災害や我が国の安全が脅かされる事案等、緊急事態が発生、あるいはそのおそれのある情報が得られた際には、当室(主に内閣情報集約センター)を経由して官邸幹部に速報する仕組みが構築されています。当室は、緊急事態発生時における政府の情報収集・集約の拠点として重要な役割を果たすほか、緊急参集チームが招集された場合には内閣情報官が会議に出席し、情報面から内閣を支えます。



国際テロ情報の収集・集約体制

邦人の安全確保のため、官邸直轄で国際テロ情報の収集・集約体制が整備されています。

国際テロ情報の収集・集約体制としては、「国際テロ情報集約室」「国際テロ情報収集ユニット」の2つの組織体が整備されています。「国際テロ情報集約室」は、官邸幹部や関係省庁の情報関心の取りまとめ等を行い、これに基づいて、「国際テロ情報収集ユニット」が、いわば官邸直轄の実働部隊として海外で情報収集を行っています。ユニットは、4名の幹部級の職員の下、東南アジア、南アジア、中東、北・西アフリカ、欧州の5地域を対象に活動しており、我が国として、海外を対象としたファーストハンドの情報収集に取り組んでいるほか、邦人関連テロ発生時に備えた、各国の治安・情報機関との迅速な協力ラインの確立に努めています。平成27年12月に発足したこの組織には、平成30年8月、「国際テロ対策等情報共有センター(現：国際テロ対策・経済安全保障等情報共有センター)」が設置され、テロ情報への迅速な対応体制が強化されました。



■ 総務部門

人事・会計・予算・国会対応といった管理・調整業務のほか、以下の業務を行っています。

情報の総合分析

特定の地域・分野について、内閣情報分析官のもとで高度な分析に従事するとともに、内閣情報会議や合同情報会議の運営等、インテリジェンス・コミュニティの連携を強化するための業務を行っています。

学識経験者の提言取りまとめ業務

国際情勢等をはじめとする各界の有識者から様々な情報や見解、提言などを聴取します。取りまとめた提言は官邸の政策判断に寄与するべく、総理大臣等に報告されます。

■ 国内部門

政治・社会事情について、国民の意見の収集・分析や国内の新聞・放送・雑誌などの論調分析を行っています。

メディア情報を用いた情報収集・分析

一般に公開されている新聞・雑誌・テレビ等のメディア情報を継続的にチェックし、重大な事案として発展する可能性のある情報の収集・分析を行っています。

各界の専門家との意見交換

政界やメディア等、国政の主要課題に精通あるいは影響力を持つ各界のプロと意見交換を行い、情報収集・分析を行っています。

■ 国際部門

海外の特定の地域や分野に関する情報収集・分析を行っています。

海外関係機関との渉外業務

海外関係機関と意見交換や協議を行い、情報収集・分析を行うほか、関係構築や連携を図っています。

オール・ソース・アナリシス

情報収集には、刊行物やインターネット等の公開情報のほか、例えば人的情報や衛星画像といった多種類の情報収集手段を用いています。これらから得られる情報を総合的に評価し分析する「オール・ソース・アナリシス」の体制を構築しています。

特定秘密保護法に関する業務

特定秘密保護法を所管し、特定秘密の保護に関する行政各部の施策の統一を保持するために必要な企画立案総合調整に関する業務を行っています。

コラム 若手職員・男性

私は情報保全に関する業務を行っています。当室には特定秘密保護法という所管法令があり、この法律によって我が国の情報が守られ、他国との信頼関係に基づいた情報協力の基礎が形成されています。情報の収集・分析といった花形業務のみならず、得た情報を漏洩させない「情報保全」も立派なインテリジェンスの構成要素です。日々、法律の運用（特定秘密文書の取扱いに関する指導、他省庁からの問合せ、国際協議への参加等）を通じ、内調の情報保全体制に貢献しています。当室は非常にコンパクトな組織ですが、皆さんが想像するよりもその職務内容や求められることの範囲は多岐にわたります。飽くなき探究心、そして未だ見ぬ世界に思いを馳せ、一歩踏み出す勇気をもつ皆さんと共に汗を流せる日を待っています。

コラム 中堅職員・男性

日々刻々と変化し続ける国内の情勢について、国政等に精通した情報のプロ達と会い、政府にとって必要な情報の収集をしています。一口に国内の情報といってもその幅は広く、新聞の政治面や社会面の記事はもちろん、雑誌やネット等、その守備範囲は広大です。常に様々なチャンネルの情報をウォッチし、「政府にとって必要な情報は何か」を考えながら、情報収集活動にあたっています。基本的に1対1で人と会うことになりませんが、確度の高い情報を収集するためには、いかに良好な人間関係を構築していくかが大切だと思います。人間関係の構築には正解がなく、私自身も毎日試行錯誤を繰り返していますが、自分に合ったやり方で人付き合いができる面白さがあります。自由に仕事ができる反面、結果には責任も伴いますが、ほかの役所にはない人付き合いや自由な働き方をしたいと思う方は、ぜひ国内部門とともに情報のプロを目指しましょう。

コラム 若手職員・女性

現在、特定の国についての分析業務を担当しています。公開情報のほか、様々な情報を収集・集約した上で、上司や同僚と活発に推敲を重ね、報告書を作成しています。時には関係機関等に対して分析に関する説明をしたり、意見交換を行う機会もあり、専門知識のない方にもわかりやすい説明とは何かを常に考え続けています。専門性が求められる分野であることから、過去の動向や歴史的背景の理解、語学力の向上、日々のアップデートといった研鑽が欠かせませんが、それゆえに毎日刺激を得られる現場であると感じます。他方、官邸の情報収集・分析体制強化の観点から、若手のうちから積極的な業務遂行が求められ、前任者のいない新しい分野にも挑戦できる職場です。我が国の安全保障を取り巻く環境は日々変化しており、今後も予断を許さない状況です。柔軟で多様な視点を持ち、困難にも粘り強く挑戦し続ける熱意のある皆さんとともに働ける日を心より楽しみにしています。

■ 経済部門

経済指標にとどまらず、海外の経済政策や個別の産業に関して、情報収集・分析を行っています。

経済情報の収集・分析

国内外の経済指標、株や為替といったマーケット情報や原油などの商品市場の動向、海外の経済政策、日本経済と関連の深い産業に関する情報を収集・分析しています。

経済専門家との意見交換

学識経験者やシンクタンク等の経済の専門家と意見交換を行い、経済データだけでは見えない情報を収集・分析しています。

■ 内閣情報集約センター

緊急かつ重要な情報の収集・集約のほか、偽情報対応を中心とする公開情報の収集・分析を行っています。

24時間体制による緊急事態対応

国内外の緊急かつ重要な情報を24時間体制で収集・集約しています。各省庁・国内外の通信社との専用回線等を備えています。

偽情報対応を中心とする公開情報の収集・分析

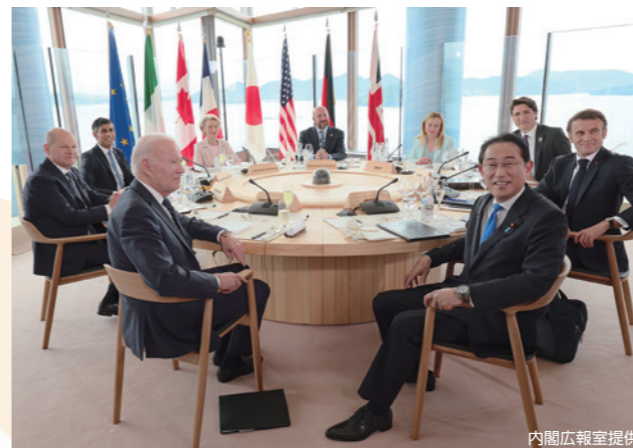
内閣官房の関係部局等とも連携し、国家安全保障戦略に記載されている「外国による偽情報等に関する情報の集約・分析」を情報面で担っています。

コラム ベテラン職員・男性

「最近の物価動向」「中国や米国の産業政策」「原油価格の見通し」「地経学リスク」等、国内外の経済に係る様々な案件について情報を収集し、分析しているのが経済部門です。経済情勢の分析には、内政や国際情勢も把握する必要があります。このため私と同僚は、日本の大手紙や海外の文献、各国の政府機関やシンクタンク等が公表したデータを丹念に読み込む作業を繰り返しています。また、有識者等へのヒアリングも実施します。そうして得られた分析結果は、官邸に報告され、施策に反映されていきます。経済は生き物であり、その時々、違う状況下での情報収集、分析が求められます。資料作成においては頭を悩ますことが多いですが、同僚や有識者との議論を通して、過去の同様のケースや比較すべき最適なデータを見出せた時の爽快感は格別なものがあります。皆さん何気なく経済ニュースを見ていることが多いと思いますが、この部門で一緒に深掘りしてみませんか。

コラム 若手職員・男性

世界情勢は絶えず変化しています。内閣情報集約センターは24時間365日、膨大な国内外の情報を関係省庁・通信社等から収集しています。そうした情報の中から、大規模災害や我が国の安全を脅かす事案等、官邸幹部に速報すべき情報を迅速に把握することで、政府における緊急事態対応の初動を担っています。災害や事案はいつ発生するか分からず、夜間休日も気を抜けません。自らの対応の遅れが政府の初動の遅れに繋がりがねないため、プレッシャーを感じる時もありますが、政府の危機管理の一端を担っているという実感は他では得がたい経験です。また、大量の情報を日々チェックし、「情報のシャワー」を浴びることで、日々のニュースに対する新たな見方や感性を磨くこともできます。最近では偽情報対応も業務に加わりました。偽情報は民主主義の基盤を傷つける重大な脅威であり、看過することはできません。今後益々発展していくであろう組織の一員として、皆さんが仲間に加わってくれることを願ってやみません。



G7 広島サミット・ワーキングランチ



G7 広島サミット・議長国記者会見

02

衛星開発から運用、画像情報分析まで行う唯一の政府機関 内閣衛星情報センター



情報収集衛星光学8号機打上げ(令和6年1月12日)

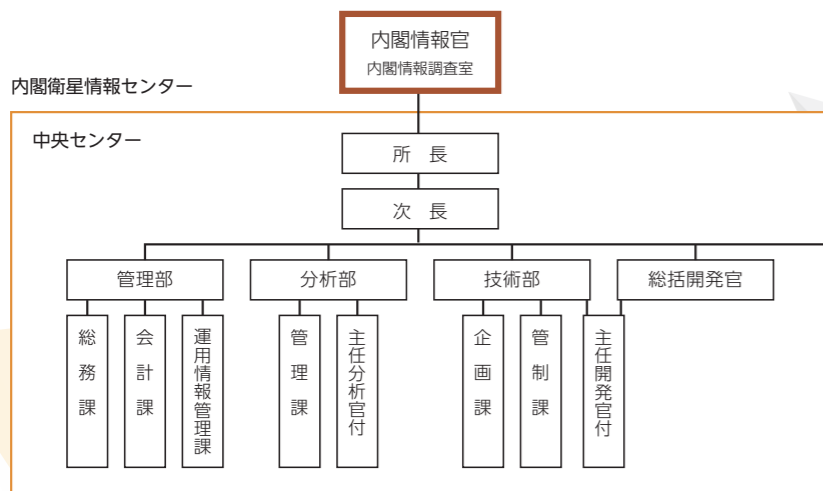
内閣衛星情報センターは、内閣情報官直下の内閣情報調査室におかれた組織です。情報収集衛星により撮像した安全保障や危機管理に関する画像を、官邸をはじめとする政府機関に提供するとともに、自ら分析を行っています。

内閣衛星情報センターの歴史とこれから

内閣衛星情報センターは、平成10年(1998年)の北朝鮮によるミサイル発射を契機に、外交・防衛等の安全保障及び大規模災害等への危機管理のために必要な情報の収集を主な目的として、平成13(2001年)に設立されました。現在は、光学衛星2機とレーダ衛星2機の4機体制を確立しており、宇宙基本計画に示されている10機体制を目指す情報収集能力の向上の早期達成に向けた取組みを着実に進めています。

10機体制により、地球上の任意の地点を1日2回以上撮像可能になります。また、伝送機会の大幅な増加により即時性も向上し、現在よりも鮮度の高いタイムリーな情報を、官邸や省庁等に提供することが可能になります。

他方、複数の衛星の並行開発や10機体制の運用に耐えうる地上施設の開発が求められるとともに、情報収集衛星の運用業務も増加することが見込まれることから、これらを支える内閣衛星情報センター職員の責務は今後さらに重要になると考えています。



情報収集業務

情報収集衛星を用いた情報収集の業務は、右図のサイクルで行います。このサイクルは省庁等からの要求、撮像計画の作成、衛星との通信、画像処理、判読・分析、分析結果の配布の順に循環しています。サイクル各項目における業務内容及び所掌する部署は、下表のとおりです。



業務のサイクル		所掌部署
① 省庁等からの要求	政策立案や任務遂行に必要となる情報について、省庁等から要求を受け付け	管理部
② 撮像計画の作成	情報収集衛星を用いて地球上のどこを撮像するか計画	管理部 分析部
③ 衛星との通信	情報収集衛星を制御する命令を送信 また、撮像した画像データを受信	技術部 副センター 北・南受信管制局
④ 画像処理	受信した画像データを視認可能なものとするために、画像処理を実施	技術部
⑤ 判読・分析	画像を判読・分析し、報告書を作成	分析部
⑥ 分析結果の配布	作成した報告書を省庁等へ提供	管理部 分析部

情報収集衛星システム開発業務

内閣衛星情報センターでは情報収集の業務だけではなく、情報収集衛星システムの開発*も独自に行っています。情報収集衛星システムは、宇宙空間から地上の関心対象の撮像を行う衛星システムと、画像処理等を行う地上システムに分類されます。情報収集業務を支えるために、運用者のニーズをふまえた的確な開発により、運用しやすいシステムを構築することが求められます。

*内閣衛星情報センターにおける開発業務とは、衛星の設計図の製図やシステムのプログラミングといった専門的な業務ではなく、情報収集衛星システムの開発業者の選定や、開発管理業務を指します。開発管理業務とは、最新の技術情報や情報収集業務及び運用者のニーズから、今後必要となる情報収集衛星の性能等の仕様を決定するとともに、システムの開発状況を管理することです。具体的には、開発予算の作成、最新の技術動向や運用者のニーズ調査、開発スケジュールの進捗管理等があります。内閣衛星情報センターでは、現在年間800億円以上の予算が使われています。これは政府の宇宙関係予算の中で最大のものです。

加工処理画像の公開

国内で大きな災害や事故が発生した際には、自治体や国民の皆様へ情報を提供するため、情報収集衛星の画像を加工して公開しています。平成27年に公開を始めてから令和6年1月までの間に、大規模な洪水や火山噴火、地震等9件の災害で、合計174件の画像を公開しています。



熊本県(令和2年7月熊本県豪雨による橋梁消失) 石川県(令和6年能登半島地震による隆起)

Interview

職員に聞いてみました

キャリアステップのひとつとして、他省庁への出向や在外公館での勤務等があります。今回は、それぞれ実際に経験した職員に、色々と質問してみました。

出向経験者



これまでに2回出向のご経験があるそうですが、どのような業務だったのか教えてください。

1回目は若手のときに、2回目は中堅になるときに経験しました。1つ目のところでは、政府内に新たな組織を立ち上げるメンバーとして法律の策定作業を行い、実際に組織が充足した後は創設メンバーとして、人事・給与関係業務のほか、土台となる規則等の整備や新たな法律の策定作業など、組織の草創期を支える一翼を担いました。

2つ目のところでは、国会及び政党・国会議員事務所からの依頼を整理して内閣府に繋いだり、国会の各種委員会や政党の会議において、政務三役を含む内閣府職員のサポートを努めるなど、内閣府と国会及び政党・国会議員事務所を繋ぐパイプ役を担いました。

それぞれ職場の雰囲気はどうか？

1つ目のところでは、幹部から係員まで全員が1つの目標を共有し、各々の役割を果たしていました。出身省庁の幹部と喧嘩する人がいるほど、出身省庁や採用枠、年次の違いを超えた「ONE TEAM」でした。

2つ目のところでは、担当業務で様々な事案・トラブルが発生していましたが、毎日の打合せで職場内に共有することで、経験豊富

な内閣府職員からヒントをもらえる上、そこでストレスが緩和され、職場全体の雰囲気が悪くなることはありませんでした。また、国会議員事務所から名指しで電話がかかってくるなど、「個の力(個性)」がものを言う世界でもありました。

出向先で様々な経験をされてきたと思いますが、出向して良かったと思うことは何ですか？

色々ありますが、1つ目のところでは、総理も出席する会議に陪席したり、組織充足時の看板掛けで総理にツッコまれたりと、他省庁の若手職員では味わえないような忘れられない貴重な経験ができたと思います。

2つ目のところでは、常任委員会の担当を任されたことで、国会の独特の文化・ルールを覚えることができた上、度々国会中継に映り込むことで、働いている父親の姿を娘に見せることができました。どちらも、そこでしか接することのない組織・立場の人と繋がりができ、内調に戻ってからも活きる人脈を構築できたことが何よりの財産です。

最後に、学生の皆さんにメッセージをお願いします！

学生時代はもちろん、内調に就職してからも、自分がこのようなキャリアステップを歩むとは全く想像できませんでした。完成された組織ではなく、時代の流れに沿って柔軟に変化を続ける内調で、「内調初」のキャリアステップを歩んでみてはいかがでしょうか？

海外勤務経験者



海外勤務が決まったときのことや、現地での業務内容を教えてください。

職場からは、早い段階で、海外での勤務が可能かどうかというお話を頂きました。私にはフルタイムで働く夫と未就学の子どもがいたため、家族との相談や調整が必要でしたが、早い段階で打診を頂いたおかげで相談する時間は十分に取れたかと思います。そして結果的に、我が家では夫が休職し、家族みんなで赴任することにしました。

赴任地では、大使館で主に総務や政務の仕事をしました。大使館での業務は幅広く、現地職員を含めた館内の勤務体制の管理、日本の外務本省からの指示に基づき赴任国政府との連絡調整や赴任国の政治情勢についての調査に加え、レセプションの開催や我が国要人の現地訪問の支援といった、まさに大使館らしい業務も経験できました。また、大使が現地の要人と会談する際に同席し、外交の現場を目の当たりにする機会もありました。

慣れない地での生活は大変なこともあったかと思いますが、休日はどのように過ごしていましたか？

そうですね、慣れるまでは大変なこともありましたが、休日には家族と買い物やドライブに行ったり、海岸や公園でのんびり過ご

したりしました。現地の食生活に興味があったので、地元の市場を見てまわったり、現地料理のレシピ本を見ながら作って家族で食べたりもしました。日本では見られない景色や体験できないことを家族と一緒に楽しめることは、海外勤務ならではの醍醐味だと思います。

海外勤務を経験して良かったと思うことは何ですか？

私は、国際情勢を調査分析するにも、海外関係機関と様々な調整をするにも、世界には様々な考え方や価値観があることを前提に対応することが大事だと思っています。その中で海外勤務の経験は、自分とは異なる考え方や価値観があること、そういった人たちとどのようにコミュニケーションを取るのかについて、身をもって学ぶ絶好の機会となりました。また、赴任国やその地域のことに詳しくなることで、その国や地域の専門性を身につけることもできました。

最後に、学生の皆さんにメッセージをお願いします！

内調には、海外勤務をはじめ、自分の可能性や視野を広げる業務に携わるチャンスが多くあると思います。皆さんも、様々な経験を通じて、幅広い視野を持ちながら活躍する情報のプロを目指してみませんか。

職員の日

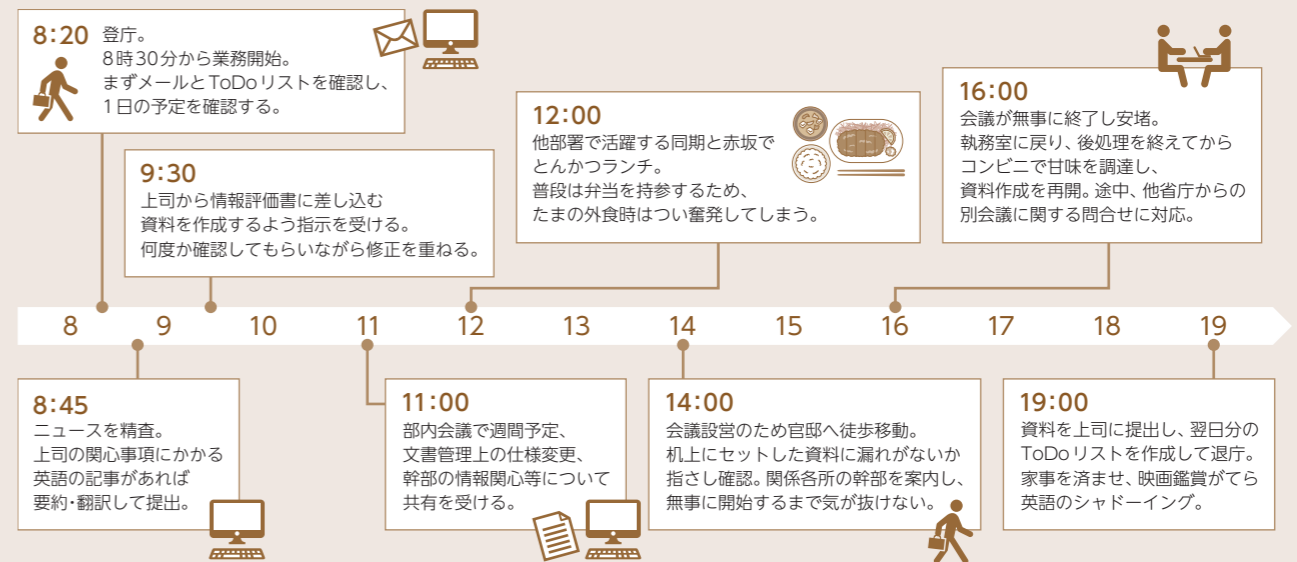
内調に勤める職員はどのような働き方をしているのでしょうか？若手職員2名のある1日を教えてください。



内閣情報調査室(行政区分) 採用・1年目 衛星センター管理部総務課で調整業務に従事



内閣情報調査室(行政区分) 採用・2年目 総務部門で情報の総合分析業務に従事



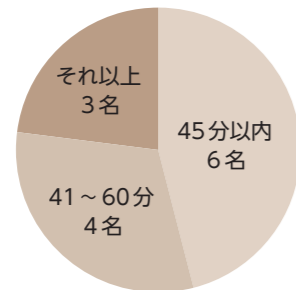
Interview

1年目職員に聞いてみました

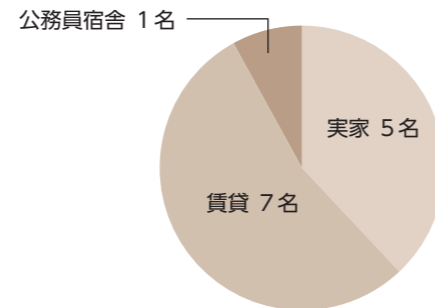


内閣情報調査室では、1年目職員も第一線で活躍しています。様々なフィールドで活躍する1年目職員13名の声をお届けします。ぜひ、内調に入ってからのイメージを膨らませてください。

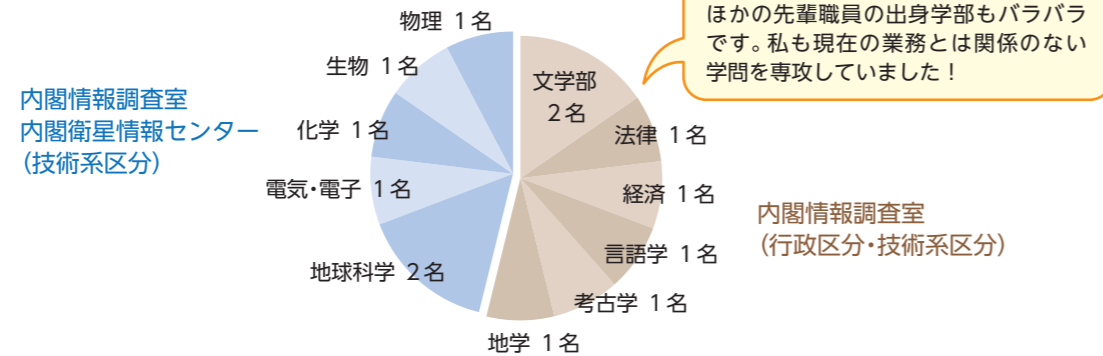
Q1 職場までどれくらい？



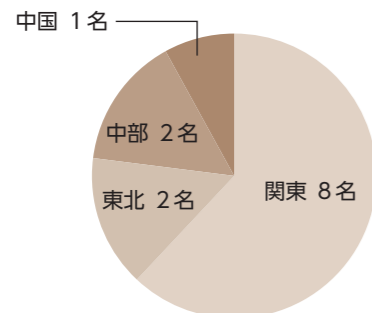
Q2 現在の住居形態は？



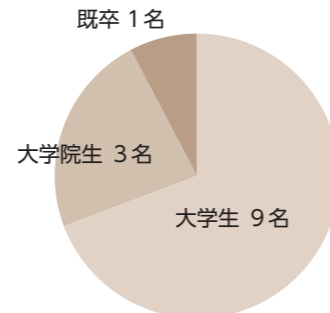
Q3 大学(または大学院)での専攻は？



Q4 出身をおしえてください。



Q5 官庁訪問時の身分は？



Q6 官庁訪問で印象に残ったエピソードは？

- 待ち時間に、様々なバックグラウンドを持った受験者と交流できたこと(結構くだらない雑談もした)。
- 面接官を務めていた職員の質問の鋭さ。驚きました。
- 面接っぽくない雑談ベースの面接もあり、緊張が解けた。

採用担当から一言
「待ち時間に受験者同士で雑談して緊張がほぐれた」といった回答がとて多い！けれど中には、「緊張していて覚えていない」という人も…。笑

Q7 内調を選んだ決め手は？

- 内調の業務にワクワクしたから。まだ見ぬ世界に飛び込んでみたい一心で選びました。
- 日本の情報コミュニティの要であることや、情報の終着点たる官邸との距離の近さに惹かれました。
- ロシアによるウクライナ侵攻に関するニュースを見ていた中で、「ペンは剣よりも強し」というようにインテリジェンスの強さを感じたから。
- 衛星センターの役割を「総理の目」と例える所長の言葉に惹かれました。
- 衛星の開発から運用、分析等の様々な側面から宇宙・衛星の分野に携わることができることに魅力を感じた。

Q8 入庁前後でギャップを感じたエピソードがあれば教えてください。

- 想像していたより遙かに穏やかな組織。
- 安全保障に携わる仕事のためもっと張り詰めた空気の職場かと思っていたが、実際動いてみるとごく普通の空気感で安心した。
- コツコツこなさなければならない地味な仕事も多い。
- 思ったより私生活を充実させるチャンスがある。
- 想像以上に他省庁からの出向者が多く、様々な経歴の方がいて驚いた。

Q9 これまでの業務に印象に残ったエピソードはありますか？

- 官邸幹部の「これが知りたい」という要求に応えた報告資料を作成したとき。官邸との距離の近さも実感できたし、なによりいい勉強になった。
- 視察対応で、普段なら滅多にお目にかかれないような方の人柄や考え方に触れることができたのは、この仕事ならではの思い出です。
- 文書を作成することが多く、役所特有の表現を使いこなすことに苦労しました。
- 国際協議の場に参加させてもらったこと。オンラインでしたが、国家間のやりとりを間近で見ることができ、国家の中枢で働いていることを実感しました。
- 夜間に、自然に囲まれた場所で行われる機材運用に立ち会ったこと。星が綺麗だった。
- 新しい衛星の運用が始まった当初、今までの衛星と異なる仕様に慣れてくることが大変でした。

Q10 一緒に働く上司や先輩はどんなひとですか？職場の雰囲気は？

- 一人一人が情報のエキスパートで、知識・技術のみならず自分の人格形成に良い影響を与えてくれます。
- 上司や先輩がサポートしてくれるので、一人で業務を抱え込むといったことはないです。休暇も取りやすい環境だと思います。
- 皆さん優しく、資料作成等で困ったときに相談に行くと、必ず親身になってアドバイスをしてくれるため働きやすい。
- アットホームで笑顔の絶えない職場です。

Q11 あなたにとって、同期とは？

- 業務での楽しいことや失敗を笑い合い、相談し合える、唯一無二の存在。
- 一番気軽に相談でき、かつ友達のように接することができる貴重な存在。他部署で頑張っている同期を見て、良い刺激をもらっています。
- 日常業務での情報交換や協力はもちろん、つらいときに支え合える貴重な存在です。
- 何でも話せる存在。
- 飲み仲間。

採用担当から一言
同期が一堂に会す初任研修でも、皆仲良く和気あいあいとした雰囲気でしたね！

Dialogue

理系出身職員によるスペシャル対談

内調では、サイバー関係をはじめとして業務内容が拡大しており、理系のバックグラウンドをもつ職員を求めています。理系出身の職員による対談を通して、内調でのキャリアをイメージしてみてください。



A 総務部門
中堅

B 国際部門
若手

C 総務部門
若手

内調 × 理系

本日はお集まりいただきありがとうございます！
理系出身コーナーということで、
まずは皆さんのこれまでの業務を教えてください。

A：私はこれまで、総務関係と情報関係の両方を経験してきました。総務関係では、国会対応業務や、定員要求や新規ポストの設置に係る業務等を担当しました。要求したいものを得るために必要な理由や数的根拠等を示し、限られた時間内で論理的な資料を作成する力が養われたと感じています。情報関係では、直近では国際情勢を踏まえたサイバー関係の事象の分析業務に携わっています。ここでは、関連事案を様々な地域や分野の情勢と照らし合わせて1つのレポートを作成しています。このレポートは政策部門や官邸に届けられることになるため、緊張感がありますが、同時にやりがいを感じています。

C：最初は総務部門に配属となり、当室が所管する特定秘密保護法に関する業務を担当していました。各省庁からの運用に関する問い合わせに対応したり、衆議院・参議院に設置されている情報監視審査会への対応業務も行っていました。他省庁と協力して行う業務が多く、時々出張もありました。

現在は、総務部門で情報システムの運用を担当しています。具体的には、予算要求・調達手続き等の行政事務業務、実運用システムの管理業務や情報セキュリティに関する企画業務を行っています。事業者の方と協力してシステムを運用するため、理系出身を買われての配属だと思っています！

B：実は、私はCさんの前任者です・・・(笑) 最初は同じく特定秘密保護法に関する業務を担当していました。ちなみにそのとき、文書集計作業を支援するシステム等を自作し、業務効率化に貢献することが出来たと思っています！現在は国際部門で、担当分野の業務で使用するシステムの導入・運用等を担当しています。業務上システムを活用することが当たり前になっている中で、当室では事業者の方と対等に技術的な議論をできる人間が少ないため、

自分はまだ若い年次ながらも裁量の大きい仕事を任せられていると感じます。また担当分野について有識者の方と意見交換をすることもあり、事務系と技術系どちらの仕事も経験できています。

皆さん多方面で活躍されていますが、
内調において理系出身者に求められていると感じることはありますか？

B：何か特定の技術を極める必要はありませんが、日進月歩で進化する技術と目まぐるしく変化する国際情勢の双方を見据えて、どのように技術を活用したら我が国の安全保障を支えることができるのかを考える力が求められていると思います。また、そうした視点で紡ぎ出した考えを、技術的背景知識がない方にも理解してもらえるようわかりやすく説明する力も必要です。

A：まさにそのとおりだと思います。当室で特に求められる人材として、いわゆる「橋渡し人材」と言いますか、技術情報について外国政府機関と情報共有をする際や、技術者と上位の管理者がやりとりをする際の「つなぐ」役割を担う人材が挙げられると思います。技術的な知識は豊富だが外国語に慣れていない、組織管理には長けているが技術的知見が薄い、といった場合などに対応できる人材が求められていると思います。

理系出身の職員として、内調で働くやりがいや魅力を教えてください。

C：キャリアの選択肢が幅広いことと、就職したときには想像し得なかったミッションに若手のうちから挑戦できることです。特に情報セキュリティの企画業務では、他省庁の方や事業者の方との交渉が多く、その内容は多岐に渡りますが、交渉が成立したときの達成感はやりがいになっています。

B：若手でも挑戦できる機会があるというのは私も思います。さらに挑戦できる業務の範囲についても、サイバー領域の情報

収集・分析や衛星画像分析といった理系的な業務から、行政官として国会対応や各国機関との渉外活動まで、理系という枠に縛られず自分のやる気次第で幅広い業務に携わることができるのも魅力だと思います。

A：私も若手の頃からサイバー分野に挑戦できる機会を頂いており、上司や同僚の高度な分析に囲まれながら関連業務に従事できることは自分のやりがいになっています。様々な人と日頃から議論し、最終的には官邸等の政策部門にレポートとして届けられることも魅力的だと思っています。

最後に、内調を志す理系学生の皆さんにメッセージをお願いします！

A：入庁して感じることは、内調はほかの省庁と比較してコンパクトな組織であるため、手を挙げれば自らの望む方向に進みやすいということです。もちろんそのチャンスを生かせるよう日々勉強は必要ですが、理系だからこれをやりなさいといったことがないため、ぜひ多種多様な分野に挑戦できる内調で、皆さんの知識を発揮していただけたらと思います。

B：内調を選ぶことは、理系出身としては「異端」の道を進むことになるかもしれませんが、一般的な企業では一生知ることのできない世界に関わることができます。変化を恐れず、前向きに取り組んでいける方をお待ちしています。



Work Style

仕事と子育てを両立する職員の働き方



内調には、子育てをしながら様々なフィールドで活躍する職員が多くいます。今回は、2名の働く先輩ママの一日をご紹介します。

内調 × 子育て

- 6:00 起床。
朝は小1長女のお弁当作りから。長女を送り出し、次女を保育園へ送る。早く出勤する日は次女の送りを夫にお任せ。
- 9:30 登庁。
勤務時間を短縮しているため常に優先順位を考え仕事を進める。時短の分、同僚とのコミュニケーションはより重要に。
- 15:30 新たな案件発生。
短時間で調整する必要があるため、期限に間に合うよう関係各所と連絡を取り合う。こういうときに日頃のコミュニケーションが活きてくる。今後の業務の優先順位を再考。
- 16:30 退庁。
学童から帰宅する長女を自宅まで迎えよう急いで帰宅。退庁が遅くなったときは帰りに学童に寄って長女をピックアップ。
- 17:20 帰宅。
長女を出迎え、宿題を確認。長女のおやつタイムの間に次女を迎えに保育園へ。夕食は、週3回はミールキットを利用。
- 18:40 夕食。
夫の帰宅が早いときは夕食前に娘たちをお風呂に入れてもらう。夕食後は長女の習い事の練習にお付き合い。
- 20:40 長女は夫、次女は私が寝かしつけ。
一緒に眠ってしまうと後が大変なのでアラームをセット。最近の次女はお話を三つ読まないと寝てくれない。
- 23:30 娘たちが寝た後、夫は自室で仕事、私は入浴と残った家事を片付け、貴重なひとり時間。
スケジュールや娘たちのことについて、夫と深夜に及ぶミーティングをする日も。

総務部門で人事業務に従事



昨年春に次女の育児休業から復職し、現在は「育児時間制度」を利用して1日の勤務時間を2時間短縮しています。昨年は子どもが二人に増えての職場復帰だったこと、今年は長女が小学生になったことで仕事と家庭の両立に不安がありましたが、勤務時間短縮のほか、必要に応じて勤務時間を前後にスライドできる柔軟な制度、そして何よりも上司・同僚の理解とサポートのおかげで忙しくも安定した日常を送ることができています。職場では勤務時間が短い分、常に業務の優先順位と効率を考えています。また、自分が退庁した後に業務の調整状況が変化することも多いので、周囲とのコミュニケーションを密に取ることも心がけています。それでも子どもの体調不良等で仕事を思うように進められないこともあります。やるせない思いが押し寄せることもありますが、日々成長しどんどん変化していく子どもたちの姿に感化されながら、限られた時間の中で仕事も家庭もどれだけ充実させられるか、日々模索しています。



国内部門で情報業務に従事



2人の未就学児を育てながら、仕事をしています。第一子の育休後は「育児時間制度」を利用しほぼフルタイムで働いていましたが、第二子の育休明けを機に、「育児短時間勤務制度」を利用し、1日の勤務時間を約5時間としています。子供が過ごす環境を大切にするため、今は仕事をセーブすることに決めました。業務量を含め、そういった働き方を受け入れてもらい有り難く思っています。仕事と家庭(子育て)のバランスには、人それぞれの形があるはずです。内調におけるロールモデルも男女を問わず増えており、やり方次第で思い描くキャリアや理想、また家族の状況を踏まえた生活を実現していけると思います。私はと言いますと、仕事を続けることに強い志があったわけではありませんが、辞めることはよぎらず、その時々のできる形で仕事を再開しました。スーパーウーマンではないので、イライラしたり、落ち込んだりもしながら、できることを着実にこなすことを心がけて、慌ただしい日々を乗り越えています。



- 6:00 起床。
まだ子供の夜泣きがあり、朝は少しつらい…。先に出勤する私が朝食とお弁当の用意、ゴミ出しを担当し、残りの家事(洗濯や朝食の片付け、園への送り)は夫が頑張っています。
- 7:45 出勤。
電車の中では、業務に関連するニュース記事を読んだり、育児マンガや子育て本を読むことも。幼稚園の連絡帳(アプリ)やネットスーパーの注文もこの時間に処理。
- 8:30 業務開始。「育児短時間勤務制度」を利用し、1日約5時間の勤務時間。業務量を調整してもらい、無理なく働いています。
- 14:00 退勤。
可能なときは残業をすることもありますが、ほとんど定時退勤。同僚や上司に恵まれ、助けられています。
- 15:00 お迎え&習い事の送迎&家事。
送迎の隙間時間に家に帰り、夕食準備、掃除。この貯蓄が後々の自分を助けます。自転車の走行距離は自ずと増え、1日約14キロ。
- 18:30 帰宅。本日の最終ラウンド。
子供をお風呂に入れて、夕食、洗濯(本日2回目)、20時過ぎの子供の寝かしつけまでノンストップ。
- 24:00 子供と寝落ちしてしまうことも多いが、なんとか(運良く?)起き上がった後、貴重な自由時間。
溜まった家事、勉強、子供の習い事のフォロー…。やりたいことは盛りだくさんでつい夜更かしに。

Work & Life Balance 両立支援制度



内閣情報調査室では、職員のライフワークバランス両立支援を目的として、各種制度の推進に取り組んでいます。

産休・育休制度

女性職員	産休制度	産前6週間～産後8週間までの期間に取得可
男性職員	「男の産休」制度	配偶者の出産に際し合計7日間の休暇を取得可
全職員	育休制度	子が3歳に達する日までの期間取得可 ※特に男性職員については、生後1年の間に1箇月以上の取得を推奨

育児に係る時間短縮制度

保育時間制度(有給)	生後1年未満の子を育てる職員(男女問わず)が、1日2回30分ずつ取得可
育児短時間勤務制度	小学校就学前の子を育てる職員(男女問わず)が、希望する日・時間について取得可

各種休暇制度

年次有給休暇	理由を問わず取得できる休暇。毎年20日ずつ付与され、前年の未使用分は20日まで繰り越し可
特別休暇	用途の定められた休暇。冠婚葬祭や夏期休暇(3日)など
生理休暇	生理日の就業が著しく困難な場合に取得可
病気休暇(有給)	入院や手術等、私傷病により休まなければならない場合、最長3箇月間取得可

interview

男性の育休取得者

現在子供が1人おり、2人目がもうすぐ生まれる予定です。1人目のときから育休を取得するつもりでしたが、別の部署への異動時期と重なったため、育休ではなく特別休暇や有給休暇を断続的に取得することで対応しました。休暇は1時間単位で取得することもできるため、日によっては帰宅時間を早めたりしていました。

また休日だけでなく平日もできるだけ子供と接する時間を長く確保できるよう、仕事の優先順位を明確にし、帰宅が遅くならないようにしています。1人目の子供が生まれる前から時差通勤の制度を利用し勤務時間を午前8時から午後4時45分までに設定しているため、定時で帰ることができた日は子供

と一緒に夕食をとったり入浴したりしています。

今回2人目が生まれるにあたって夫婦で話し合い、夫婦ともに実家が遠方にあり親からのサポートは受けられないことから、自分も育休を取得してできるだけ妻の負担を軽くしたいと考えました。長期間休むことで職場に迷惑をかけてしまうのではないかという思いもありましたが、上司や同僚から「育休を取得することは当然の権利だ」といった言葉をかけていただいたため、安心して取得を決めることができました。

近年は育休を取得する男性職員が増えています。内調の業務について「忙しそう」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、勤務時間を調整するための制度も用意されているので、採用後は仕事と生活の両方を充実させてほしいと思います。

Benefits & Recruitment 待遇・制度、採用について

内閣官房は原則として各省庁からの出向者で構成されていますが、内閣情報調査室はその中で唯一、独自の定期的採用を行っています。令和3年度より、インテリジェンス機関としての求心力をより高めるべく、行政系については内閣情報調査室全体で一括採用を行っています。

採用数一覧表

()内は女性の数

		内閣情報調査室	内閣情報調査室 内閣衛星情報センター
採用試験区分		行政区分・技術系全区分	技術系全区分
採用年度	令和3年度	7 (3)	4 (2)
	令和4年度	8 (2)	6 (2)
	令和5年度	8 (1)	7 (3)
	令和6年度	10名程度	6名程度

初任給(令和6年度現在)	行政職(一)1級25号俸 242,640円(地域手当、本府省業務調整手当含む) ※大学院卒、社会人経験のある方は俸給月額が加算されます。
賞与(ボーナス)	期末手当、勤勉手当として、年間4.50月分
諸手当	扶養手当、通勤手当、住居手当、超過勤務手当等
勤務地	内閣府本府庁舎(東京都千代田区永田町1-6-1)、 内閣衛星情報センター(東京都新宿区市谷本村町9-5)、在外公館等
勤務時間	原則 9:30~18:15(勤務時間変更制度活用可)
休日	年次有給休暇20日間(4月採用者は、その年の12月まで15日間)、特別休暇(夏季、結婚、忌引等) ※仕事と育児・介護の両立を支援する制度があります。
福利厚生	<ul style="list-style-type: none"> ● 共済組合制度(医療費の給付、診療所、契約施設(保養所等)の補助) ● グループ保険制度(団体保険、団体積立) ● 診療所(内科、歯科) ● 定期健康診断 ● 人間ドック

官庁訪問 Q & A

Q 官庁訪問はどのように実施していますか。

内閣情報調査室の官庁訪問では、1人の学生に対し複数回の面接を行っています。面接回数は、他省庁の官庁訪問より多いかもしれません。内閣情報調査室内閣衛星情報センターの官庁訪問では、若手職員、ベテラン職員、管理職等の面接官による階層型の面接を行っています。上記いずれの官庁訪問においても、受験者の人柄、企画力、コミュニケーション能力、将来性等を総合的に評価します。

Q 技術系区分受験者の採用は行っていますか。

内閣情報調査室、内閣情報調査室内閣衛星情報センターのどちらにおいても、全ての技術系区分受験者を対象とした採用を行っています。なお、内閣情報調査室内閣衛星情報センターでは、デジタル・電気・電子区分、物理区分、機械区分を中心に、農学区分、土木区分等からの採用実績もあります。官庁訪問の際には、技術系区分受験の方は上記2つのうちどちらでの採用を希望するか選んでいただき、それぞれの選考に進んでいただくことになります。

Q 語学力はどのくらい求められますか。

当室では、国際関係業務が拡大傾向にあり、採用後の業務においても語学力が要求されることがあります。しかし、官庁訪問時に必ずしも高い語学力を有している必要はありません。語学に自信がなくとも積極的に挑戦いただければと思います。ただ、国際関係業務を志望する方は、採用後に語学力を身につけようとする意志は持って欲しいと思います。

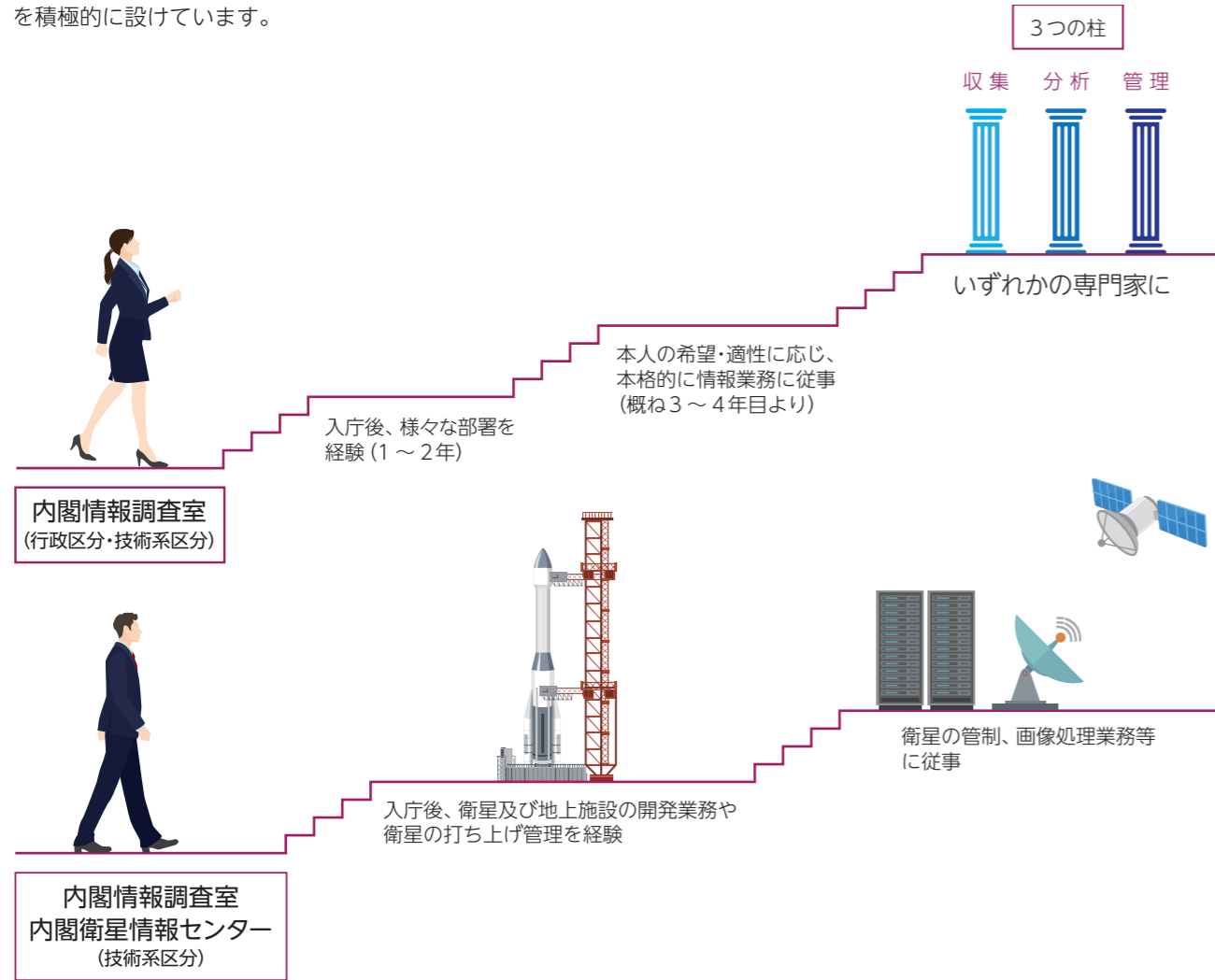
Q 求める人物像を教えてください。

- 情報収集・分析等のプロフェッショナルになるという「強い意欲」をお持ちの方
- その時々状況に合わせて対応できる「柔軟性」をお持ちの方
- 広く社会全体にアンテナを張り巡らせる「視野の広さ」、物事の背景を解き明かしたいと思う「好奇心」をお持ちの方
- 時に困難な状況であっても、解決策を見出そうとする「粘り強さ」のある方

上記に限らず、当室にご興味のある方は積極的に門を叩いていただければと思います。

キャリアステップ

日本の情報コミュニティの柱となる人材の育成を目指し、内閣情報調査室では様々な研修のほか、他省庁への出向、在外公館勤務等、キャリアアップのための豊富な機会を積極的に設けています。



column

内調人生を振り返って

(長年国際部門で活躍するベテラン職員)

20代は専門性を身につけるための努力、他省庁への出向。30代、40代は専門性の研鑽、海外勤務、新しい部署の立ち上げ、50代は専門性を活かした新組織の立ち上げ、内調の組織管理と強化といったことをやってきました。役人人生の3分の1以上は他省庁での勤務ですが、情報コミュニティ内で人脈も増えまし、客観的に日本のインテリジェンスの強みや課題を考える機会に恵まれました。内調の業務は幅広く、自分の努力次第で専門性を身につけ、伸ばしていくことができます。若い頃から心がけてきたことは、

来るものは拒まず、チャレンジ精神を持って、常に120%立ち向かうことです。ただ猪突猛進になるのではなく、常に慎重に考えた上で、自ら実行するということを大切にしてきました。また、自分個人の専門性を磨くことだけにとらわれず、常にチーム、組織全体を考慮することが重要だと考えています。幸いなことに、これまでの職業人生で、内調の中でも希少な任務や新しい組織作りに携わる機会に多く恵まれました。特に海外の情報機関と一緒にやり遂げた任務は私の密かな誇りです。内調のあり方として常に意識しているのは「陰ながら日本を守ること」です。何のために内調に入ったのかを常に考え、実行していけば、きっと誇らしい仕事に巡り会えるでしょう。

キャリアステップ例

あるベテラン職員がどういった内調人生を歩んできたのか、皆様にお届けします！(※所属名は現在のものです。)

- 1年目 **内閣情報集約センター** 官房長官秘書官に対し、記者会見前あるいは随時、ニュースを速報。官邸が求める“ニュース感覚”を肌で感じた。
- 総務部門** 学識経験者の提言取りまとめ業務を担当。
- 国内部門** オフィスの外に出て、内調と共通の関心事項を有する各界の人々と意見交換。情報業務の一步を踏み出した実感。
- 10年目 **出向** 出向先で国会勤務。“予算と法律が作られる現場”を目の当たりにした。
- 在外勤務** 某国の大使館で勤務。クーデターやテロが身近な問題に。外務本省へ送る電報書きで文書修行。総理訪問の調整業務も経験。政府専用機の日丸に目頭が熱くなった。
- 国際部門** テロ情勢をフォロー。自分の専門分野の一つが形成された。
- 出向** 警察庁に出向し、特定分野にかかる国内外の情報収集・分析業務を経験。
- 国際部門** 官邸の関心事項を踏まえて、国際テロ情報に関する報告資料を作成。チームリーダーの役割も担った。
- 20年目 **総務部門** 人事担当として、組織全体を俯瞰的に把握。
- 国際部門** チームを率いて、特定地域の情勢を日々フォローし、官邸に報告。“この時のために内調に入ったのだ”という思いをかみしめた。
- 国際テロ情報集約室** 海外におけるテロ情報の収集活動をマネージメント。
- 総務部門** 情報コミュニティの結節点となる部署で、情報の分析、共有、プロダクト作成を通して、組織の枠を超えた“情報コミュニティ人”として官邸にお仕え。
- 30年目 **管理職**

人材育成・キャリアステップの機会

新任者研修

新規採用の職員向けに複数回に分けて実施します。秘密保全教育に加え、情報機関の役割、各部門の業務を知ることで、日本の情報体制及び内調の全体像を具体的に把握し、内調の主力となる人材の素地を作ることを目的としています。

語学習得の支援

語学学校への通学補助や、組織での研修を行っています。

研究員派遣制度

人事院の研修制度(長期在外研究員派遣制度、行政官短期在外研究員等)を活用して、「専門性」に磨きをかける機会を設け、職員がスキルアップできる環境を整えています。

他省庁への出向

専門性を強化し行政事務経験を積むため、情報コミュニティ省庁(警察庁、公安調査庁、外務省、防衛省等)や内閣府等への出向の機会があります。

在外公館勤務

内調職員として培った知識・経験を生かして海外で勤務します。在外公館勤務では国外で多様な人々と仕事をする貴重な機会であり、希望する職員には積極的に機会を与えています。



Application Process

2024年度採用スケジュール

採用担当者から皆さんへ

突然ですが、最近よく目にするニュースは何でしょうか？1年前だと何でしたか？5年前は…？

その時々によって主要なニュースは異なっています。きっと3年後、10年後には新たな事象がニュースになっていることでしょう。このように国内外の情勢は、日々目まぐるしく変化しています。

こうした情勢の変化に伴い、当室の業務も変化・拡大を続けています。求められる能力も多種多様になってきており、職員一人一人が“情報のプロフェッショナル”であり続ける必要があります。それは簡単なことではなく、ときに険しい道になるかもしれません。しかし、組織として可能性が広がっているということは、自分の可能性も広がるということです。思い返せば、私が内調に入ろうと決意を固めた1番の理由は、「内調に入ったら自分の可能性が広がる」と思ったからです。

当室は組織の規模が比較的コンパクトであるため、若手のうちから様々な業務に挑戦できるチャンスが多く巡ってきます。すでにやりたいことがある人も、そうでない人も、「内調」というフィールドで、ぜひ様々なことに挑戦していただき、自分の可能性を広げていただけたらと思います。

就職活動という人生の大きな節目に、当室の採用担当として少しでも皆様のお手伝いができたら嬉しい限りです。皆様の応援者として精一杯務めますので、ぜひ説明会等に参加してみてください。お一人お一人と過去の、現在の、そして未来のニュースについて話し合い、当室と皆様の可能性について語り合うときを楽しみにしています。

採用スケジュール

6月	2日	第一次試験日
	26日	第一次試験合格発表／ 官庁訪問予約受付開始
7月	2日	官庁訪問開始
	10日～26日	第二次試験（人物試験）日
8月	13日	最終合格発表日
10月	1日	採用内定

Our History

内閣情報調査室の歴史と発展

内閣情報調査室は、戦後、我が国が再び国際社会の荒波に耐えよう、旧総理大臣官邸の小さな一室で産声をあげました。着実に発展の道を歩み、年々組織の重要性が高まっています。

Beginnings 1952

昭和27年4月9日 第3次吉田内閣	1952	内閣総理大臣官房調査室 (総理府の組織として新設)
昭和32年8月1日 第1次岸内閣	1957	内閣調査室 (組織改編により内閣官房に)
昭和61年7月1日 第2次中曽根内閣	1986	合同情報会議を設置 内閣情報調査室 (内閣官房の組織再編により名称が変更)
平成8年5月11日 第1次橋本内閣	1996	内閣情報集約センターを設置 (緊急な重要情報を24時間体制で収集し、内閣総理大臣等へ報告する)
平成10年10月27日・12月22日 小淵内閣	1998	内閣情報会議を設置 情報収集衛星の導入について閣議決定
平成13年1月6日 第2次森内閣	2001	内閣情報官を設置 (中央省庁再編に伴い内閣情報調査室長から格上げ)
平成13年4月1日 第2次森内閣	2001	内閣衛星情報センターを設置 (情報収集衛星の開発・運用、画像情報の収集・分析)
平成20年4月1日 福田内閣	2008	カウンターインテリジェンス・センターを設置 (外国の情報機関による情報収集活動から我が国の重要な情報や職員等を保護) 内閣情報分析官を設置 (特定の地域または分野に関する特に高度な分析)
平成26年12月10日 第2次安倍内閣	2014	「特定秘密の保護に関する法律」の施行 (内閣情報調査室が特定秘密の保護に関する企画及び立案並びに総合調整事務を所掌)
平成27年12月8日 第3次安倍内閣	2015	国際テロ情報集約室を設置 (国際テロ情報の集約、国際テロ情報の収集調査に関する連絡調整)
平成30年8月1日 第3次安倍内閣	2018	国際テロ情報集約室に「国際テロ対策等情報共有センター (現：国際テロ対策・経済安全保障等情報共有センター)」を設置 (内調を含む関係11省庁と連携し、テロ情報の共有・分析を行う)

説明会情報

採用ホームページをご確認ください。
https://www.cas.go.jp/jp/saiyou/saiyou_index.html



連絡先

内調情報調査室

採用専用TEL
03-5253-2107

内閣情報調査室内閣衛星情報センター

採用専用TEL
03-3267-9564